

平成 28 年 6 月改定

平成 26 年 6 月改定

平成 24 年 1 月

## コンピュータサイエンス専攻(CS)における 社会人早期修了プログラム履修のための案内

### 【1】 社会人早期修了プログラム履修審査

社会人特別選抜によって後期課程に合格し、早期修了プログラムの履修を希望する者は、以下の書類を提出することによって、社会人早期修了プログラム履修審査を受けることができます。書類提出時期と提出先については、システム情報工学研究科の「早期修了プログラム履修審査に係る日程表」(システム情報工学研究科ウェブに掲載)を見て下さい。

また、書類提出前に提出書類の内容について指導希望教員と相談して下さい。

なお、このプログラム履修審査は、書類審査を原則としますが、場合によっては面接審査を行います。

### 社会人早期修了プログラム履修審査のために準備する書類

次のように、Ⅰ. 概要、Ⅱ. 業績リストと付属資料、Ⅲ. 達成度自己点検シートの3種類の書類を提出して下さい。

#### I. 概要

次の項目について、簡潔にまとめて下さい(全体で1ページ以内)。

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先  
(郵便物送付先、電話番号(携帯電話も)、FAX 番号、e-mail address を必ず記載)
- (4) 志望分野・志望教員
- (5) 修士論文作成時の専門分野(修士号保有者のみ)
- (6) 業務内容と志望分野との関わり
- (7) その他参考となる事項(業績・資格など)

#### II. 業績リストと付属資料

早期修了プログラムを履修するためには、次の(1)、(2)の研究発表の実績が必要です。

- (1) 査読付き学術雑誌論文1編以上(最近5年以内で、筆頭著者であるもの)
- (2) 国際会議における口頭発表論文2編以上(主たる著者であることが望ましい)

これらを含む業績リストを作成して下さい。業績リストは、査読付き学術論文、査読付き国際会議論文、口頭発表、その他諸報告、社会的貢献・活動、受賞・表彰、特許・発明、に区分して、「業績リスト

(CS)」を『業績リスト (CS)』記載例』を参考として、作成して下さい (様式自由, ページ制限無し).

また、付属資料として、(1)の査読付き学術雑誌論文の別刷り 1 編と、(2) の口頭発表した国際会議の論文 2 編の別刷り (いずれもコピー可) を提出して下さい. なお、(1)については、採録可とされていれば未刊行のものでも構いません. その場合は、採録通知と原稿を付属資料として下さい. さらに、(2) における国際会議における口頭発表論文は、以下を指すものとします.

- 国際会議, 国際ワークショップ, 国際シンポジウムにおける審査付き発表論文
- ポスターセッションなど, 口頭での説明を伴う審査付き論文も含まれます

但し、本業績によって、博士早期修了プログラムが 1 年間で修了できることを保証するものではありませんので、受入れ予定指導教員と相談することをお勧めします.

### III. 達成度自己点検シート

達成度自己点検シートに、以下の項目について、別紙記載例 (pdf ファイル『達成度自己点検シート (入学時審査)』記載例) を参照しながら、「達成度自己点検シート (入学時審査)」に簡潔に記入して下さい (各項目とも、なるべく 500 字を越えないこと).

原則として①, ③, ⑤, ⑥, ⑦については A (博士の学位にふさわしいレベル) であることが主張できなければなりません. その他の項目②, ④については B (修士の学位レベル) 以上を主張してください (博士の学位にふさわしいレベルであることを主張しても差し支えありません).

#### ①専門基礎 (入学者の志望専門分野について、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか)

業績リストで挙げた論文等の内容に基づいて、専門基礎が、博士の学位にふさわしいレベルであることを、端的に、主張して下さい.

#### ②関連分野基礎 (志望専門分野に関連した分野について、修士レベルの基礎能力を有しているか)

修士号保有者は修士課程のときの学習内容に基づいて、また修士課程を修了していない場合は、修士相当の関連分野基礎能力を有していることを客観的かつ具体的に述べて下さい.

#### ③現実問題の知識 (現実の問題について、博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか)

これまでの業務内容などに関連させて、実務の中でどのように現実の問題の知識を得たかについて記すとともに、現実の問題の知識が学術的蓄積に現れている箇所について記して下さい.

#### ④広い視野 (修士レベルの視野の広さを有しているか)

これまでの業務内容などを踏まえて、これまでの経験と学習がどのような形で広い視野を形成するようになったか簡潔に記して下さい.

#### ⑤問題設定から解決まで (専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか)

業績リストおよびこれまでの業務内容に関連させて、どのように問題設定を行い、問題を解決していたか、具体的かつ客観的に述べて下さい.

#### ⑥コミュニケーション能力と国際的通用性 (博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力)

を有し、専門分野において国際的に通用する学識を備えているか。)

国内外を含めた、学会での発表経験（種類・回数）、講演会での発表経験、海外研究者との交流経験など、国内外でのコミュニケーション経験・能力について述べて下さい。また、TOEIC、TOEFLなどの受験経験や外国語論文の執筆状況、留学経験、海外への長期渡航経験などがあれば記して下さい。

⑦学術的成果(博士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか)

業績リストによって判定するので、記載は不要です。

### **社会人早期修了プログラム履修審査の内容について**

「達成度自己点検シート（入学時審査）」、「業績リスト（CS）」などの資料を基に、達成度評価項目別に3段階評価を行います。

3：博士論文予備審査に入れるレベル

2：修士号相当のレベル

1：修士号のレベルに達していない

達成度評価項目のうち、①、③、⑤、⑥、⑦については3、それ以外については2以上の評価をもって履修可と判定します。

## 【2】 履修が承認された場合の学修について

### 履修すべき単位数について

以下の科目について計 10 単位を修得することが必要です。

- (1) コンピュータサイエンス特別研究 (6 単位：必修)
- (2) コンピュータサイエンス特別演習 A (2 単位：必修)
- (3) コンピュータサイエンス特別演習 B (2 単位：選択)

このうち、(1)、(2)は必修ですが、(3)に替えて他の専門科目を 2 単位以上修得することもできます。その他、どの科目を履修すれば良いかの詳細については、本プログラム履修が承認された後に連絡します。

これらを履修することによって、予備審査時には、①～⑦すべての項目について予備審査に入れるレベルに到達している必要があります。

### 中間審査について

学修を円滑に進めるため、本プログラム履修開始から 3～4 ヶ月経過した時、学修の進捗について中間審査を行います。中間審査時には、履修審査時に提出した「達成度自己点検シート（入学時審査）」と同様な形式の「達成度自己点検シート（中間審査）」を提出し、担当教員の指導を受けて下さい。

### 予備審査について

予備審査の申請にあたって、「達成度自己点検シート（予備審査）」（履修審査時に提出した「達成度自己点検シート（入学時審査）」と同様な形式で記述）では、①～⑦すべての項目について、入学後何を学び、博士予備審査のレベルに達したかを述べて下さい。

なお、履修すべき科目数と履修内容については、各学生により異なる場合がありますが、いずれも達成度評価に基づき判定しますので、担当教員の指示に従って下さい。

予備審査時には、次の 2 点を審査します。

- (1) ①～⑦すべての項目について A（博士の学位にふさわしいレベル）以上であることの確認
- (2) 学位論文の予備審査

予備審査に合格した者は、学位論文に着手することが認められます。

**【参考】 社会人博士後期課程早期修了プログラム達成度評価項目と修了時の達成度の目安**

**① 専門基礎**

履修者の専門分野について、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。

**② 関連分野基礎**

専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか。

**③ 現実問題の知識**

現実の問題について、博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか。

**④ 広い視野**

博士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか。

**⑤ 問題設定から解決まで**

専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか。

**⑥ コミュニケーション能力と国際的通用性**

博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有し、専門分野において国際的に通用する学識を備えているか。

**⑦ 学術的成果**

博士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか。